

平成 27 年 4 月 15 日

教育開発推進機構長殿

学部長 石井 研士

平成 26 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに関し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	神道文化学部
事 業 名	アンケートの実施の簡便化による授業運営、学部運営の向上プログラム
平成 26 年度実務担当者名	西岡和彦
事 業 の 概 要	
【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？ （いずれかにチェック）	
<input type="checkbox"/> 計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね計画通りであった <input type="checkbox"/> あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/> 計画通りではなかった	
（以下、 本年度の推進事業の概要 について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）	
<p>新入生から卒業生にいたる学修支援態勢を充実化するため、卒業生アンケート、新入生アンケート、神社に関する基礎知識問題（2 回）、新入生オリエンテーションアンケート、就職・奉職アンケートを計画通りに実施した（すべて昼夜間主ごとに実施）。</p> <p>卒業生アンケート（一昨年度）では、満足度は従来通り高い結果が出たが、それとは裏腹に留年率や卒業延期率を改善できなかった。そのため、質問内容改善を教務委員会で検討を重ねた結果、次回は留年や卒業延期経験者用の質問欄を設け、いかなる要因で躓いたかを自己分析してもらうことにした。それを今年度卒業式で実施し、次年度予算で分析する。</p> <p>神社に関する基礎知識問題を、今年度からオリエンテーション期間中と年末に 2 回実施した。年末の実施は授業時間（必修科目「神道概論」）に実施したことで、新入生以外のデータも採ることができたことから、次年度は 2 回とも授業時に実施し、到達度と留年生対策のデータ蓄積を計りたい。</p> <p>新入生アンケートと新入生オリエンテーションアンケートで、新入生に入学当初に 2 回実施した。後者は今年度初めて実施したアイスブレイクでのアンケートである。この分析結果から次年度のアイスブレイクの方法を検討した。</p> <p>就職・奉職アンケートは、2 年生を対象に実施した。これにより男子学生と女子学生の進路意識に変化が現れてきたことがわかった。なかでも女子学生は、この段階で一般企業へ進路変更した学生が顕著になり、新入生アンケートで実施した数値に変化が生じていることがわかった。これにより女子学生の就職対策・支援の改善が求められるようになった。</p> <p>今回、予算執行率は 54.8%と伸びなかったが、計画はすべて行った。執行率が伸びなかった原因は、委託業者が勉強して下さったことと、儉約と奉仕の精神にあった。これはたいへん有難く、かつ恐縮なことであったが、数値本位で判断される場合には、それがかえってマイナス評価へと繋がった（次年度予算削減）。とはいえ、この 3 年間でゆるやかながら執行率が伸びており、それは本学部教員が FD 推進事業に理解を示し、協力態勢が全体的に整ってきたことを表したものと考える。次年度は、従来の方法を踏襲しつつも、予算執行率 100%を目指したい。</p>	